

音・音楽に対するよさを見いだす音楽科の授業づくり

音楽科研究部

1 音・音楽に対するよさを見いだすこと

本校の研究テーマ「〈他者〉を楽しみ続ける子どもの育成」に基づく研究は3年目となるが、昨年度までは、特に即興的性質を〈他者＝自分の認識におさまらないもの〉と設定して、それを子どもがいかにも楽しもうとするか、また音・音楽に対してどのようなよさを感じ取っていたのかを見取ろうとしてきた。その結果、音・音楽が鳴り終わった後にゆったりと味わうことよりも、即座に感じたことを言語化することによって、自分自身が感じたよさをメタ認知させたり、友達どうしで共有し合ったりすることの重要性が再認識された。本年度は、〈他者〉に出合った後に、音・音楽のどのようなことがよさであったのかを子ども自身が自覚することを積み重ねていくことに重きを置き、音・音楽に対するよさを見いだす音楽科の授業づくりを研究主題とした。

2 音楽科で大切にしたい行為

音楽科において、〈他者〉を楽しみ続ける子どもとは、「もう一度聴きたい（演奏したい）」と音・音楽のよさを求め始めた時、「こうしたらいいのでは」とアイデアを思いついたり「今のすごい」とよさを見つけたりした時、「できた（できなかった）」と活動の後に振り返る時などが挙げられる。本年度は、それらを実現するために前提となる行為を「大切にしたい行為」として見だし、実際の授業でそれらの行為が生み出される手立てを行うこととした。

(1) 想像したり考えたりしながら聴く

これまでの実践から、その場で生み出された音・音楽よりも、演奏者の振る舞いや演奏する行為自体に注意が向いてしまうという課題が見つかった。音楽科では、視覚的な出来事・行為ではなく、何よりも音・音楽を「聴く」ことに意識が向くように、手立てとして聴く視点を明確にして指導を行うことを意識した。

(2) 何度も鳴らして試す

目に見えない音・音楽を扱う音楽科にとって、よいアイデアを考えたり、一度気づいたことが本当にそうであるかを確かめたりするためには、何度も鳴らして試すことが必要である。瞬時に消えてしまうという音・音楽の特性からも、「何度も」聴いて確かめさせ、実感させることを意識して指導した。

(3) 音・音楽に対する快・不快を言葉にして、価値判断をする

音・音楽に対する快・不快を言葉にすることが子ども達のメタ認知を促すことは、明白である。特に、音・音楽に合わせて身体表現をさせたり、音・音楽が鳴り止んだ後すぐに言語化して表出させたりすることを意識した。

(4) 多様な表現を受容する

音・音楽には様々な表現が存在し、そのよさを受容する受け皿を広げていくことが〈他者〉を楽しみ続ける姿であると考えている。多様な表現を受容する行為を促すために、教室内でたった一人でもよさを感じた子がいれば、その「うなずき・つぶやき」を取り上げて、全員の学びにつなげていくことを意識した。

3 カリキュラムを編む

昨年度までは、驚きを伴って自分の認識を覆されるような刺激的なものを〈他者〉として実践してきた傾向にあるが、本年度は、自分の中にはなかった穏やかな心地よさをも、子ども達にとっての〈他者〉になり得るという認識の上で教材開発・授業研究を行った。また、これまでの実践をカリキュラムに落とし込んだところ、次の3つの点が本校の音楽科カリキュラムの主張として見えてきたことは一つの成果である。

(1) 【活動】音楽づくり・即興

子ども自らが音楽を創り出す主体となることに比重を置いた多様な形態の音楽づくり・即興をカリキュラムに組み込みつつある。これらの活動では、音楽を習い事として学んでいるかどうかに関わらず、子どもらしい多様な音楽的アイデアが〈他者〉として立ち上がり、子どもどうしが学び合う相手となるよさがある。特に即興は、その場で創り出される音楽のおもしろさとともに、正解や間違いのない価値観が子ども達にとっても心地よい音楽として認識されつつある。

(2) 【内容】鳴らさないよさ（静寂・間）

楽器の操作や身体の動きなど、目に見えるものにとらわれ過ぎず「聴く」ことに集中させるためには、鳴らさないよさ、すなわち静寂や間の心地よさを感じ取れる内容を効果的にカリキュラムに組み込んでいくことが必要である。衝動的に鳴らしたいという気持ちをおさえ、鳴らさないよさを実感した子どもは、聴く行為を意識するようになる。

(3) 【教材】物語とともにひたる

音楽にひたりきって楽しむ経験を積むことができるよう、物語性を伴う教材をさらに増やしたい。物語性のある教材では、子ども達が喜ぶ姿を見ることが多いことも理由の一つだが、想像しながら聴いたり、自身の経験と結びつけて聴いたりするきっかけは、音楽を自分のものとして感じることを促し、想像力に乏しい子にとっても助けとなり得ると考えている。

(文責 梅比良 麻子)